

立田自然公園

立田自然公園は泰勝寺の跡地にあります。

細川家は、細川忠利（1586-1641）が 1632 年に、より大きな熊本藩の藩主になる前、九州北部の小倉藩に配属されていました。小倉にあった菩提寺は泰勝院と呼ばれており、後に忠利によってここ熊本に再建されています。その後、息子の光尚が泰勝院を泰勝寺と改称しました。

園内には、以下の人物の主な霊廟が 4 つあります（右から左）。

- 細川藤孝（1534-1610）：忠利の祖父、忠興の父
- 沼田麿香（1544-1618）：藤孝の妻
- 細川忠興（1563-1646）：小倉藩主、忠利の父
- 細川ガラシャ（1563-1600）：忠興の妻

細川ガラシャの霊廟は、4 つの霊廟の中で最も多くの人々が訪れています。武将・石田三成は、1600 年の関ヶ原の戦いに先駆け、彼女を利用して夫を東軍から西軍へ寝返らせようとしたが、ガラシャは人質に取られるよりも、37 歳で死ぬことを選びました。石田は関ヶ原の戦いで敗れ、1603 年には徳川幕府が成立し、1867 年まで日本を統治しました。ガラシャはその悲劇的な生涯により、歴史小説で人気の登場人物となっています。彼女の出生名は「たま」であり、ガラシャは彼女がキリスト教に改宗したときにつけられた洗礼名です。

デザイン要素としての家紋

霊廟は、側面に壁のない拝殿と本殿の 2 つの部分からなります。社殿の扉は開放されており、屋内にある巨大な石造の五輪塔を見ることができます。扉や壁、金具には細川九重の紋章が彫られており、屋根の角には立派な鬼瓦があります。

細川家の墓には他にも、第 10 代当主の細川斉茲（1755-1835）の墓があります。斉茲は、家名を継ぐ嫡男が生まれなかった場合にも男系を維持できるよう、細川家の分家から養子に出されました。斉茲が細川家の本家ではなかったことが理由で、細川家三代以来の墓がある北岡自然公園ではなく、ここに墓が作られたという説もあります。また、ここには、細川家の庇護の下、熊本で晩年を過ごした伝説の剣豪・宮本武蔵（1584-1645）を祀った石塔があります。

湖でのお茶

湖を見下ろす仰松軒（松を仰ぎ見る茶屋）は、1922 年に建てられたものです。藁葺き屋根とこけら葺きの軒を持つこの建物は、細川忠興（1563-1646）の設計に基づいています。忠興は、

茶道の達人として知られる千利休（1522-1591）が抱えていた、わずか7人の弟子の1人でした。庭園にある手洗い用の石盥（手水鉢）は、利休が使用していたといわれています。実際、忠興はこの手水鉢に惚れ込み、2年ごとに将軍に近い都で過ごすために江戸（東京）に赴く際には、必ず持って行きました。

着生植物に覆われた高さ30mの杉の古木が点在する苔庭は、自然好きの方にはたまらないでしょう。また、かつて絶滅したと思われていたヤエクチナシの花壇もあります。ヤエクチナシはここ立田山にしか自生しておらず、6月から7月上旬に開花します。